DETAILS UP TO DATE

切妻屋根と書棚のモデュールでつなぐ「知の景」

京都女子大学図書館　佐藤総合計画＋安田アトリエ

Kyoto Women's University Library by AXS SATOW INC.＋YASUDA ATELIER

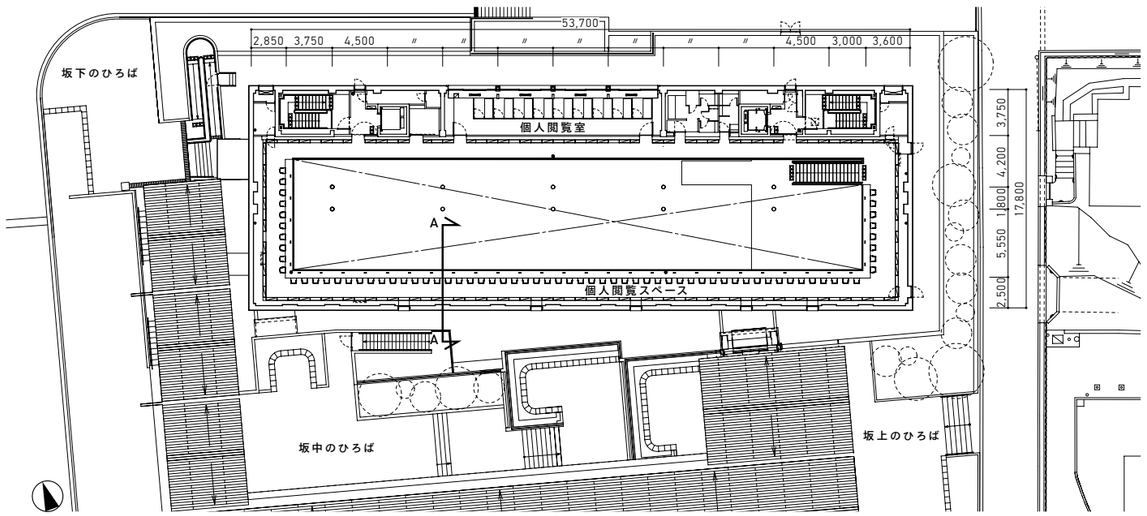
家具：藤江和子アトリエ

施工：鹿島建設

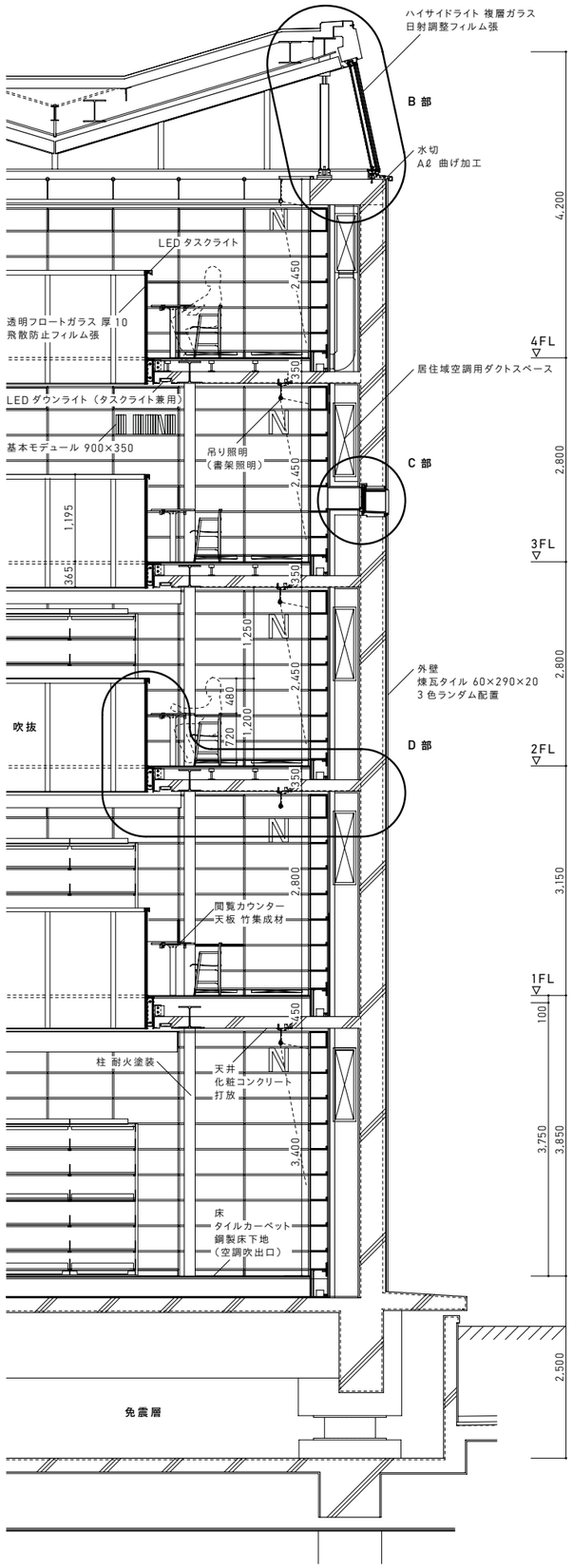
竣工：2017年2月

所在：京都府京都市

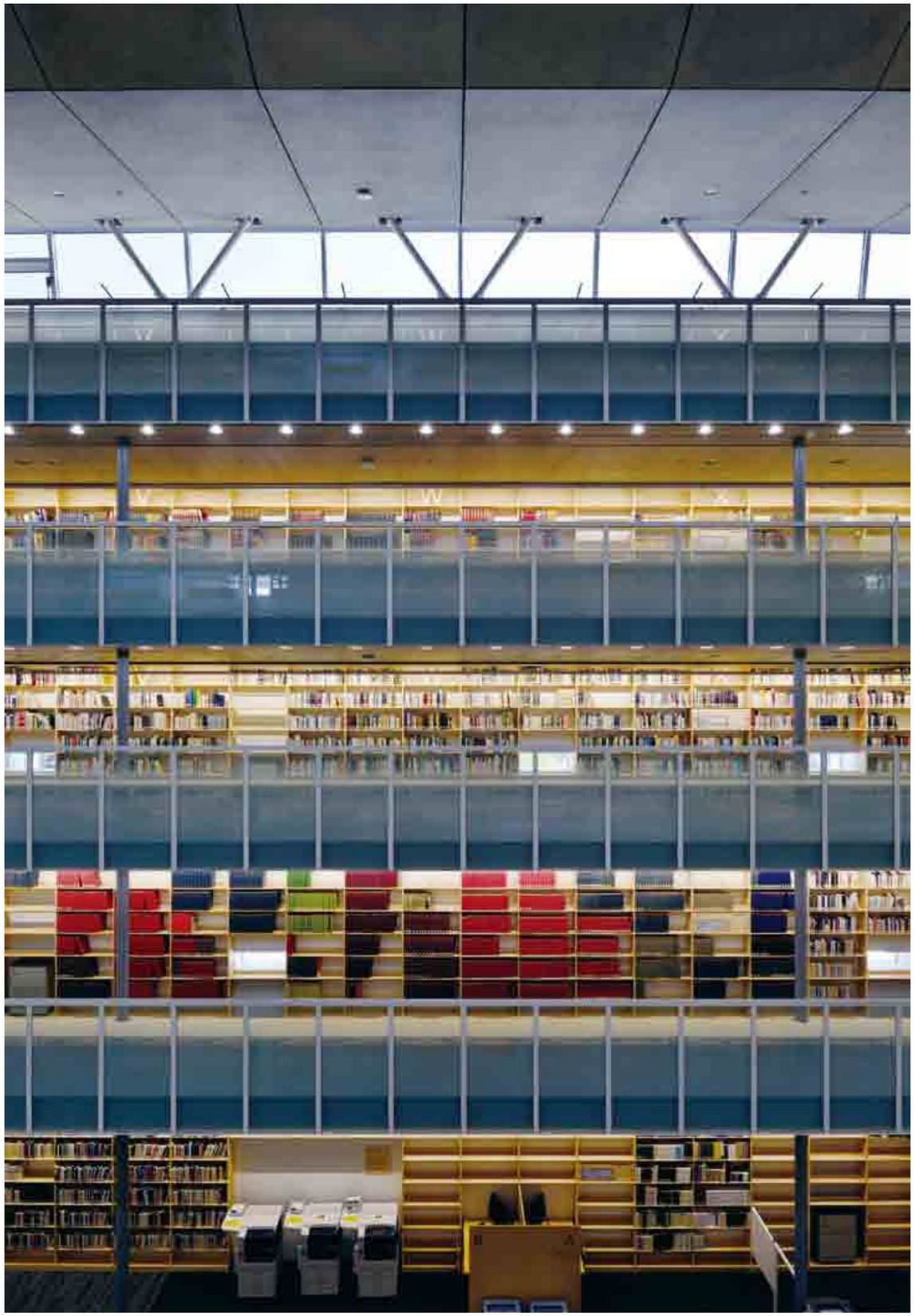
撮影：石黒 守



配置兼4階平面　1／500



A－A 断面　1／80

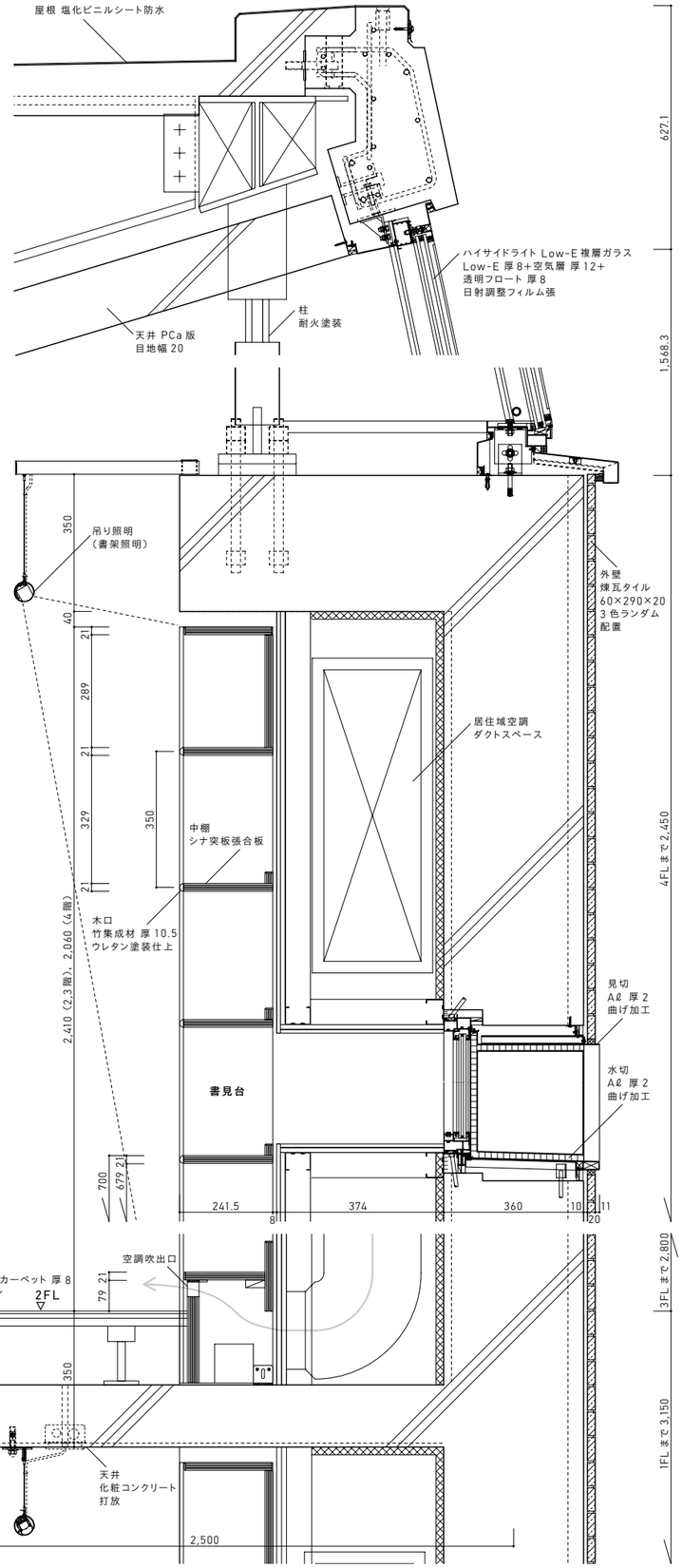


撮影：ZOOM／淺川 敏

女坂で二つに分けられていたキャンパスが，それらをつなぐ要の位置に図書館ができて，学生生活の中心になった。ディテールで取り上げたいのは，キャンパス全体の流れを演出する屋根の形と，学生生活の要をなす書棚のモデュールである。

屋根は女坂の流れに沿った切妻と，実は切妻に見えるプラットフォーム型で，東山から見た景観に馴染み，歩行者をそれとなく覆う。他の棟も，改修のときにはこれに倣うことになるのではないか。

書棚のモデュールは900mm × 350mm。これを徹底して，内外に使っている。350は7の倍数であるため，関連した数値が使いにくいとされているから，普通は360で間に合わせるのだが，女子学生用には350が手頃というので，注目したい。



B，C，D 部断面詳細　1／15

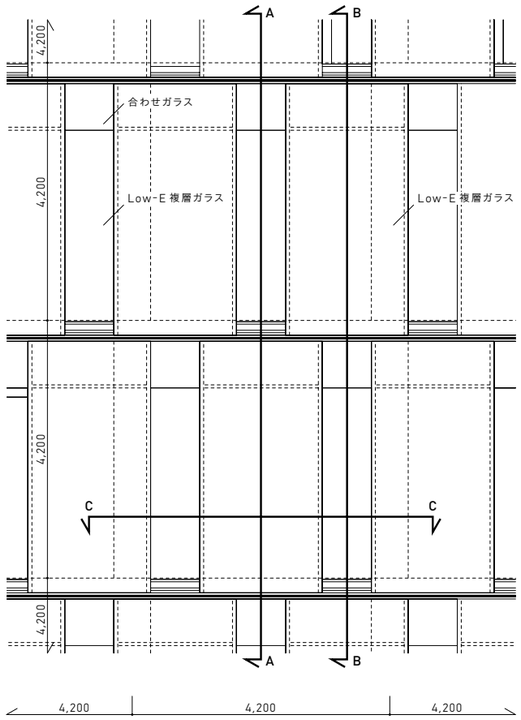
DETAILS UP TO DATE

蘇州瓦をモチーフとしたファサードデザイン

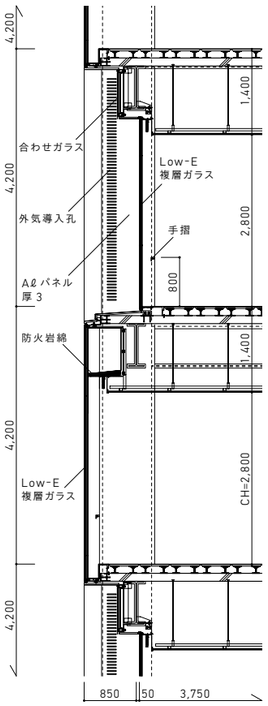
蘇州電視台（蘇州現代メディアプラザ）　日建設計／宮川浩＋喜多主税＋石井太志

The Suzhou Modern Media Plaza / Double Tree By Hilton
by NIKKEN SEKKEI LTD / Hiroshi MIYAKAWA + Chikara KITA + Futoshi ISHII

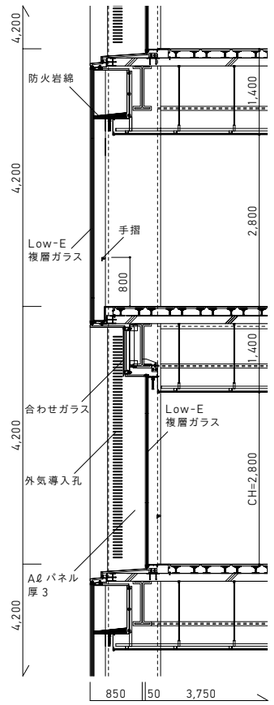
施工：中億丰建設集団股分有限公司
CW工事：瀋陽遠大鋁業工程有限公司（CNYD）
ガラス工事：耀皮ガラス
竣工：2015年12月
所在：中国 蘇州
撮影：Hu Wenkit



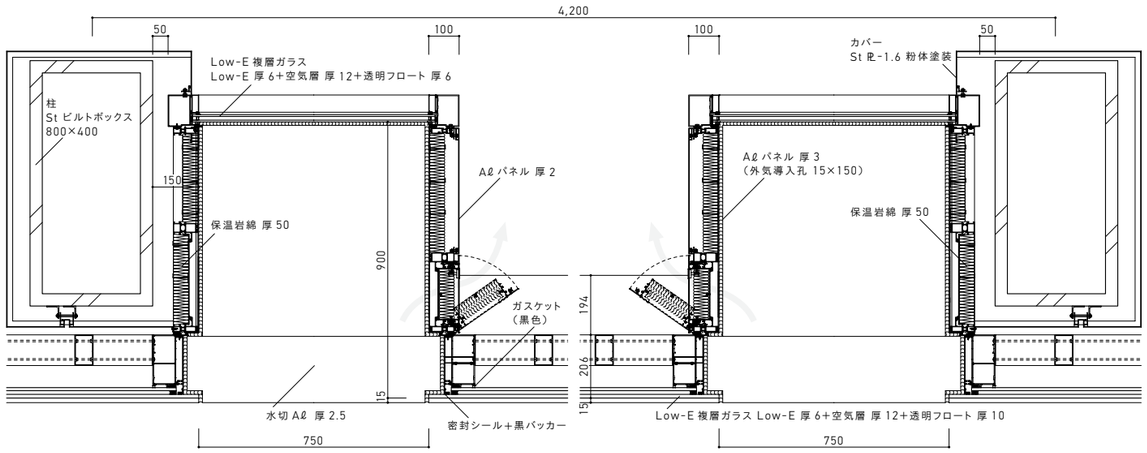
オフィス棟外壁立面　1／100



A－A 断面　1／100

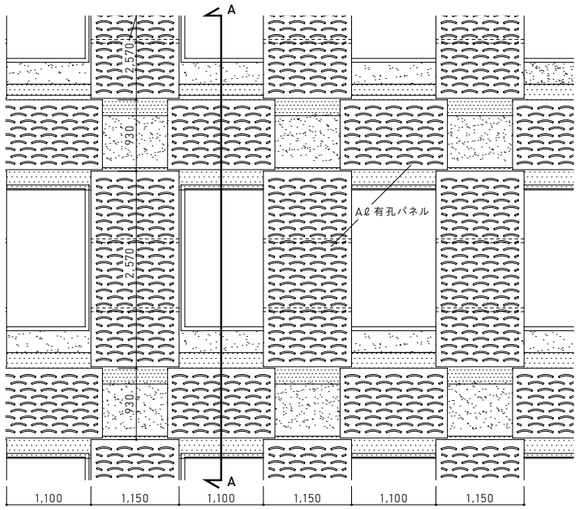


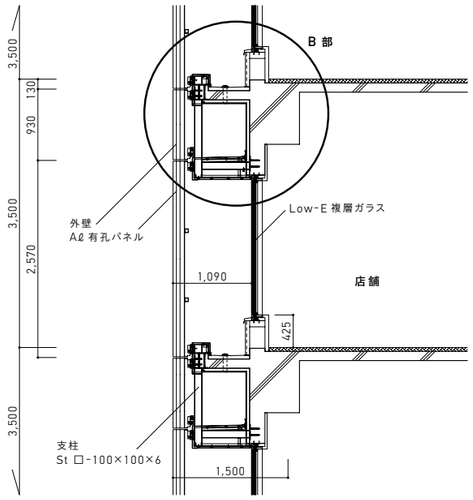
B－B 断面　1／100



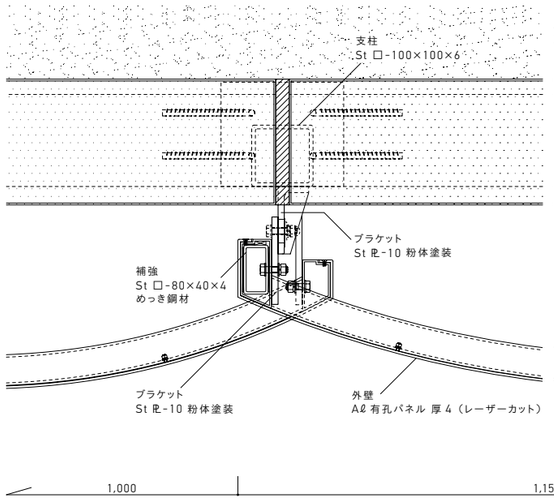
カーテンウォール C－C 平断面詳細　1／20

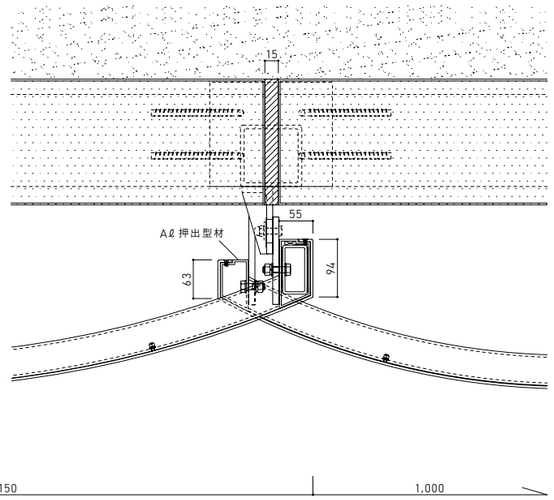
中国蘇州に建つオフィスタワーとホテルの外装を意味のあるものにすべく，黒く反りの強い蘇州瓦をモチーフに取り入れたファサードデザイン。オフィス棟は柱スパンを調整して750幅の凹部を設けて陰影をつくり出し，サイドに自然換気窓を納め，そのパターンを階毎にずらして全体にガラスによる網代状のダイナミックな表情を演出している。ホテル棟は通常のガラス開口の外側に瓦形をレーザーカットしたうえで，さらに瓦状に曲げ加工したアルミ厚板を窓部とスパンドレル部でずらして配置し，繊細で変化に富む表情をつくり出すのに成功している。特筆すべきは室内からの見え方で，交互に配置されたアルミパネルのおかげで，オフィスとは異なるホテルにふさわしいプライバシーが保たれている。日本のような高精度な施工を期待できない中国の建設事情を踏まえながらも，勘所を押さえたデザインの秀作に違いない。



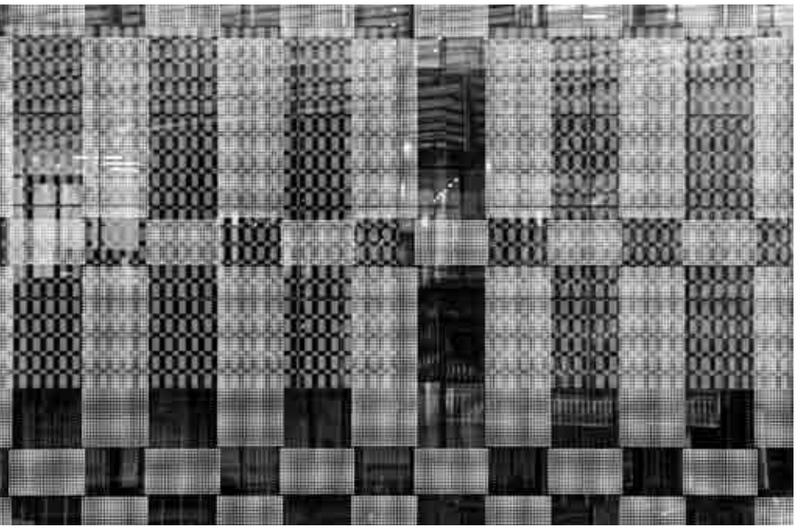


ホテル棟・商業棟外壁立面（左） 1／80，A－A断面（右） 1／80

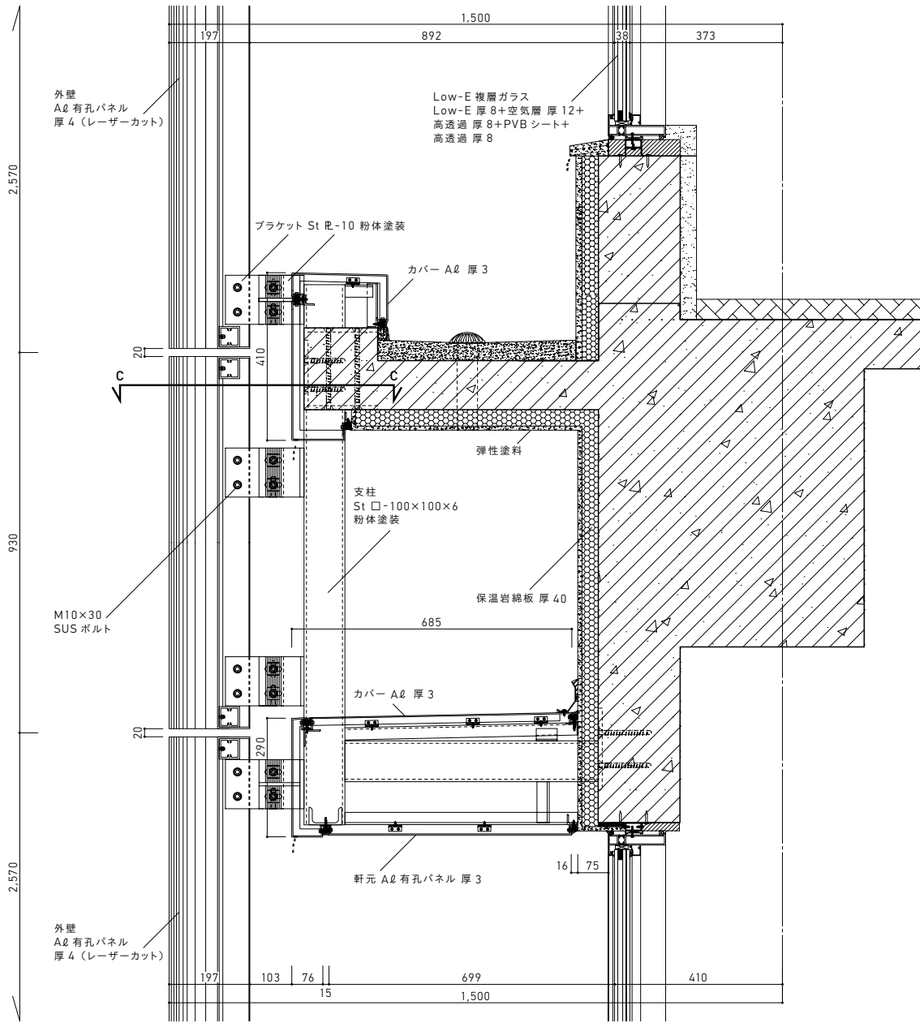




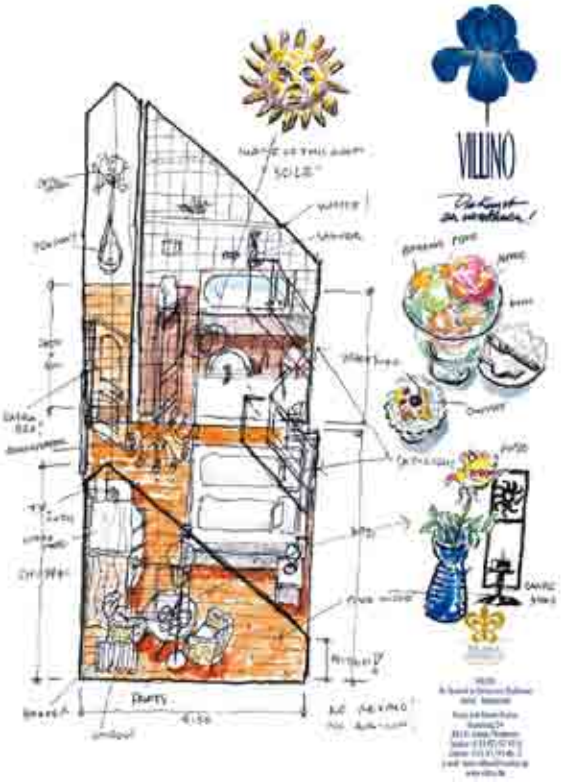
外壁C－C平断面詳細 1／10



撮影：西川公朗

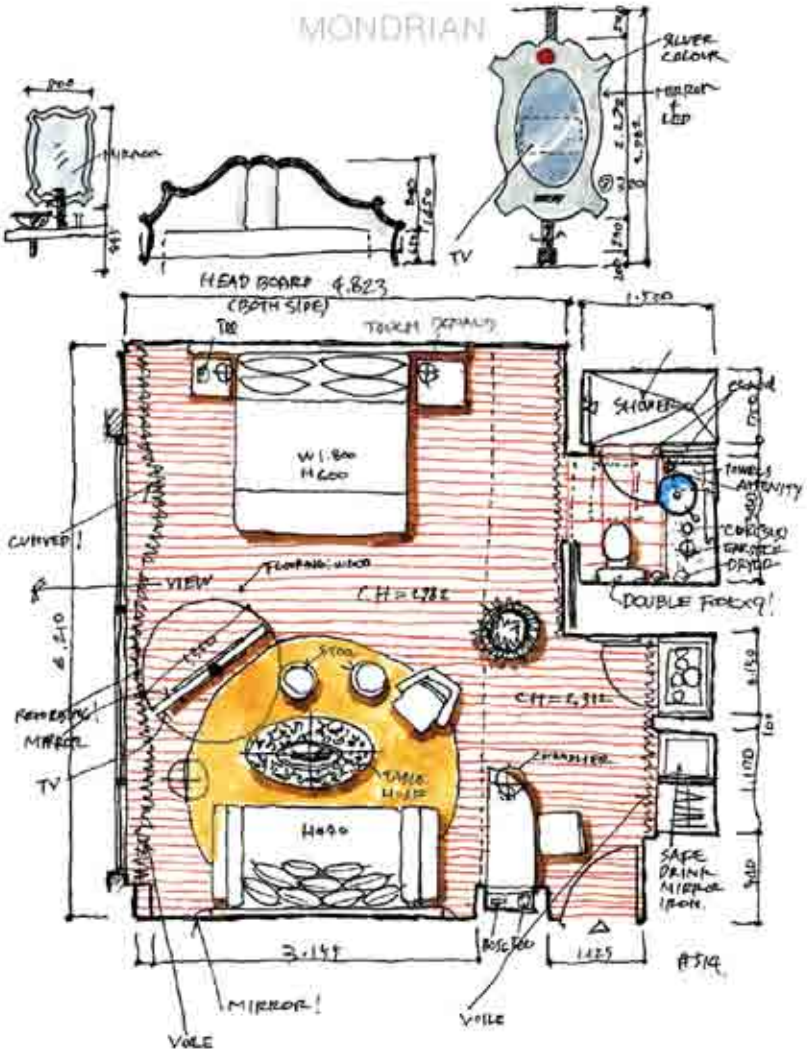


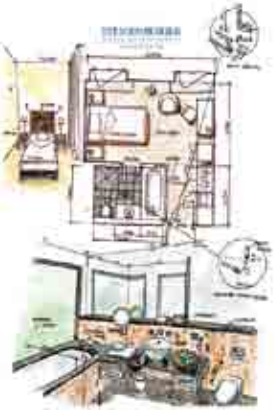
外壁B部断面詳細 1／15

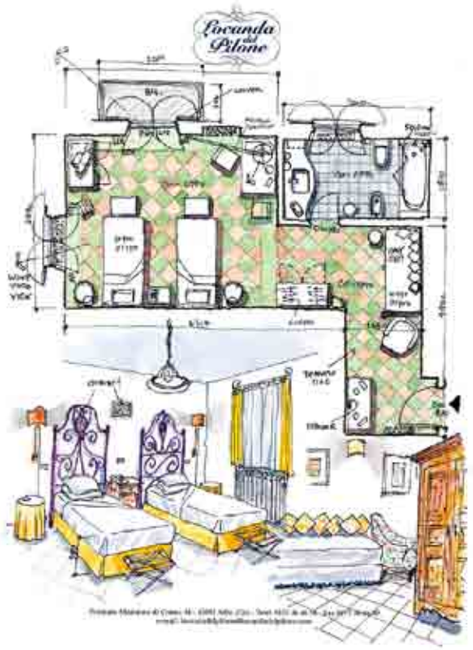


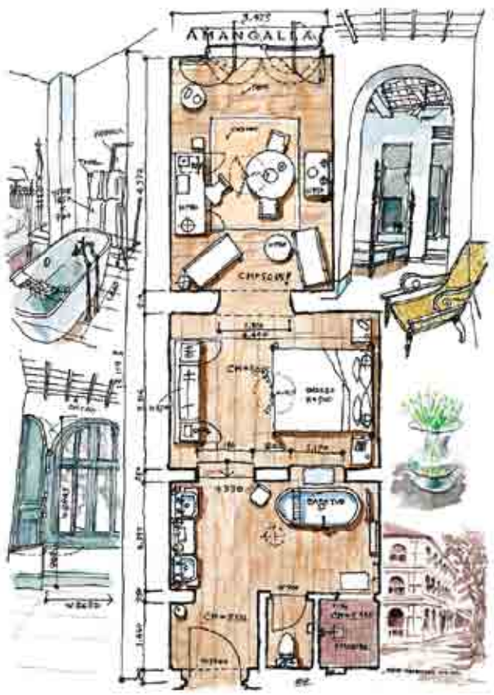
価値を生む ホテルのディテール

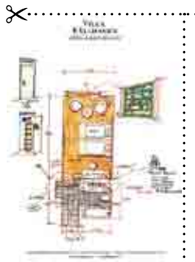
特集











ホテル建築は「世につれて」次々と変化しているが，最近の変化はどうも一過性のものとは言い難い。総人口の27％強が65歳以上になったといわれる超高齢化社会の宿泊施設に大きな変化が出てきたようにも思える。しかしそれが主流になるかどうかはわからない。

宿泊・宴会・料飲という大規模シティホテルの「セット感」が崩れ，「グランド化」傾向がとみに少なくなって久しい。ホテル単独開発などほとんどなくなり，大きなホテルでも収益性などからオフィス建築などと複合されることも多い。

これはかなり以前からいわれている「宿泊特化型」と呼ばれるホテルがふえたことに加え，さまざまな特徴をもった施設が市街にたくさん現れたことにもよる。この流れはますます加速され，ホテルという建築はいずれ雲散霧消してゲストルームなども都市の中にばらまかれるのではないかと思われるほどである。

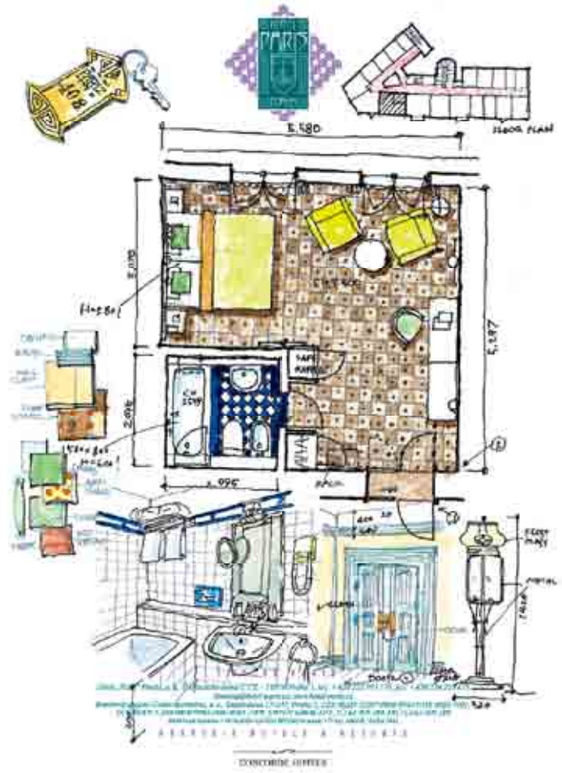
また，ホテルとサービスアパートメントとの差がはっきりしなくなっている。中・長期滞在型のサービスアパートメントなどはキッチンや冷蔵庫が付くことがあって，用途上の解釈はあるものの平面は大きなゲストルームとあまり変わりない。

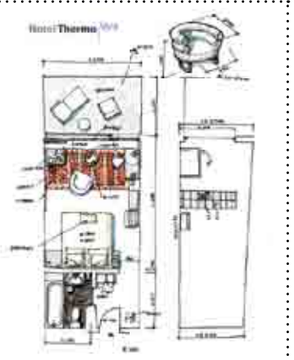
「民泊」や「街中の小さな宿泊施設」などがどんどん出てきて大きな流れになりつつある。リニューアルが多いが，従来のホテルにはなかった「リラックスした親密で豊かな体験」「独立性」「それぞれの特性」などを望むことができ，この傾向は定着してある流れをつくり出すと思われる。

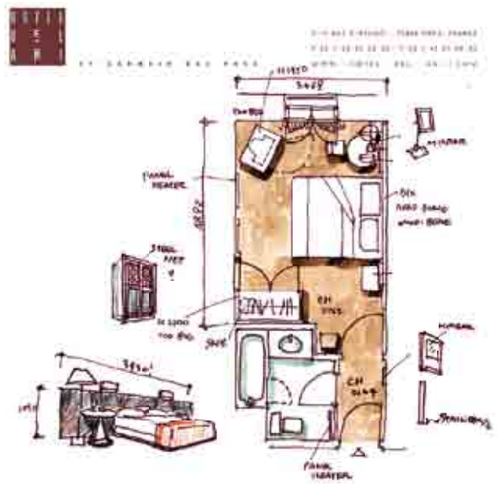
さらに，いわゆるシティホテルとリゾートホテルとの差が明確でなくなってきた。事業者は新しいニーズを引き出そうとし，このことが旧来のジャンルを不明瞭にして新しい施設を生み出そうという動きになる。そしてどちらもますます富裕層向きの内容が充実してきていて，もちろん高齢者向きの配慮も細かく求められている。これは止まるところを知らない。

このようにこれまでのホテルの概念が消え失せ，新たな宿泊施設ができつつあるように見える。

——浦 一也







6枚のスケッチから世界のゲストルームを読み解く

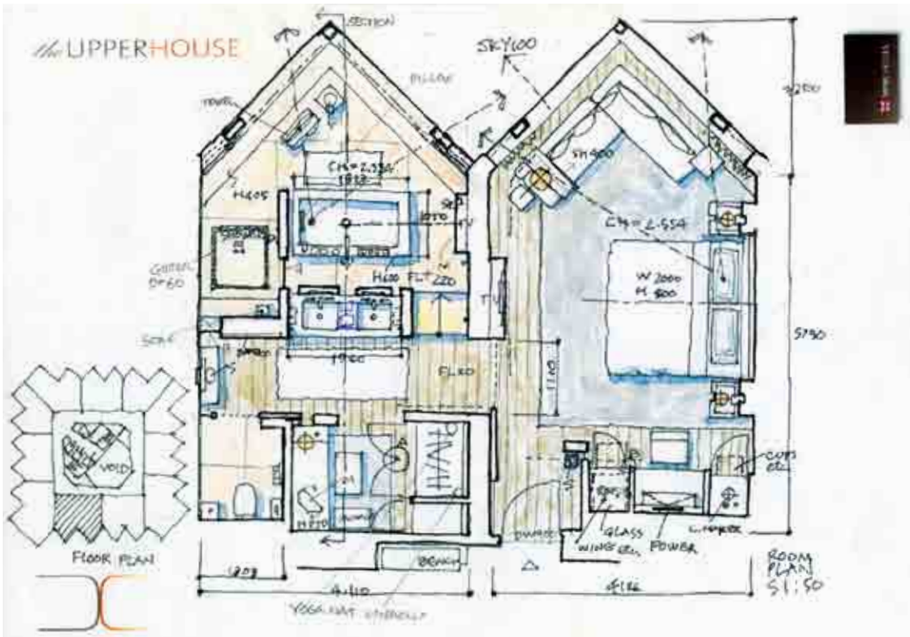
スケッチ・文：浦 一也

最近の特徴的なゲストルーム6例。
さまざまな変化の兆しはこれまでのゲストルームには見られなかった。

Guest Room No.1

ジ・アッパー・ハウス

（中国・香港）



ホテルとサービスアパートメントが混在している。
オープンで眺望を軸にした明快な計画，
解体されたバスルーム，内装の限られた素材，
ソフィスティケートされた意匠と，
近未来を予感させる新しいスタイルを見せている。

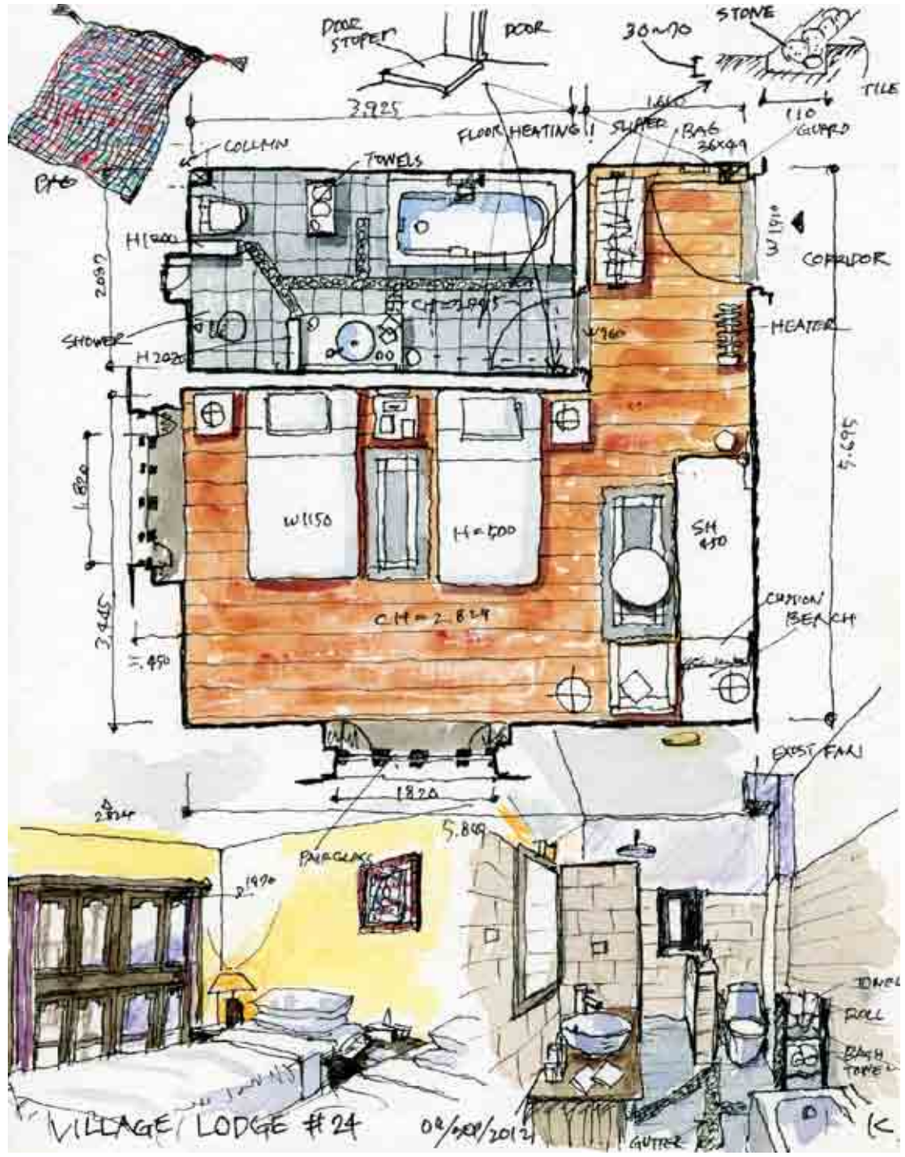
The Upper House

Village Lodge

Guest Room No.2

ヴィレッジ・ロッジ

（ブータン・パロ）



ほぼ正方形平面で過不足がない。
1フロアに4室だけなのでどの部屋も2方向採光が得られている。
バスルームの器具は最新だが中央の「ガター」は溝に
河原の丸石を入れているだけ。
自然が室内に入り込んだ新鮮さがある。

宿泊スペースの新潮流

松家 克

最近，ホテルの話題が多い。
2020年の東京オリンピック，世界遺産の指定などで，日本の魅力的な観光資源発掘の活発化が起因とも考えられる。あわせ，多様な文化の訪日観光客も爆増した「今」が，ホテル設計のターニングポイントともいえる。
以前は，宿泊室での内外に開放的な浴室の設計には，大きな抵抗があった。今では，受け入れられる環境となり，数多く見られる。宿泊スペースで開放的な浴室を中心とし，フロアや天井高にレベル差をあえて設け，視覚や感覚の変化を楽しむ事例も見られる。ベッドの高さがより高くなり，ファーニシング，アートワーク，椅子・テーブルや調度品類も変化と多様化が進んでいる。日本型の旅館では，半露外とした湯舟･浴槽などが人気。眺望，光，風，音，外気などと接する開口部まわりのデザインも重要であり興味深い。旅行や宿泊を「ハレ」のときと捉え，楽しむ年齢層も増えている。最近では，スマホやPCでの検索で宿泊先を決めることが一般化し，ホームページやインスタグラムの写真映えなども重要度が増しているといえる。
一方，伝統的な空間も依然として根強い人気がある中で，JRは，新しい試みとして，動くホテルとも呼ばれる空間を実現させている。客船や飛行機などもしかりである。これらの限られた空間のディテールには，今後の宿泊スペースの設計でのヒントがあるといえる。
そこで，「今」の傾向を探り，セイムスケールでまとめ，空間の快適な広さを図る糸口になればと考えている。

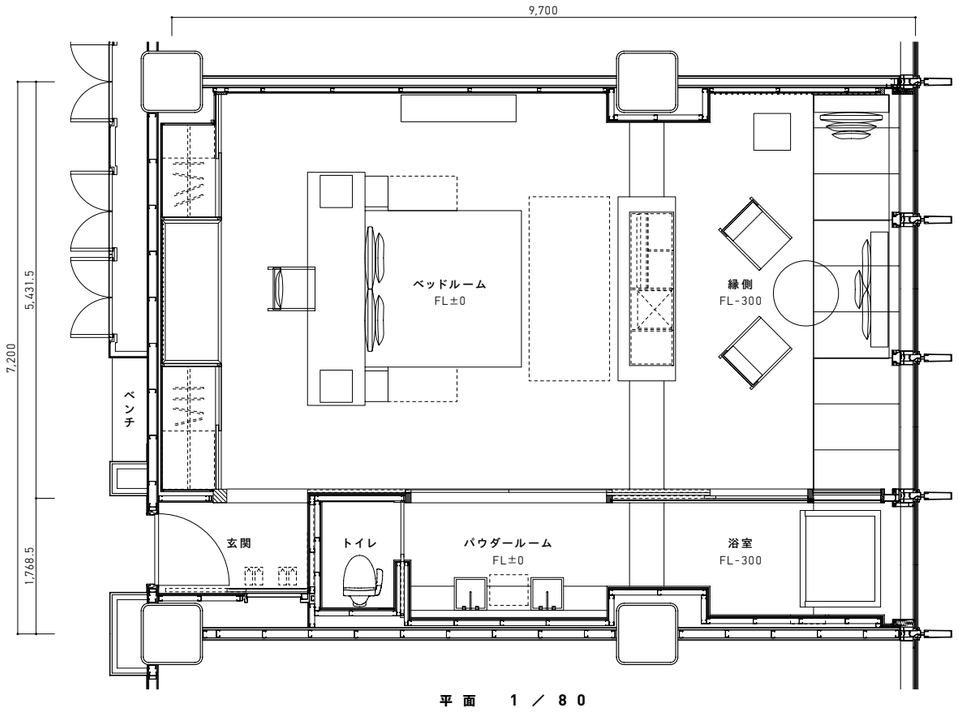
Room No.1

「縁側」のある客室

大手町タワー アマン東京
大成建設一級建築士事務所，ケリー・ヒル・アーキテクツ（インテリアデザイン）

囲われた空間である客室は温かく親密な空間とするために，仕上げは厳選された自然素材で構成している。ベッドルーム，縁側，パウダールーム，浴室の四つのエリアが基本構成となっており，窓側の床レベルを300mm下げることで空間を変化させ，ベッドルームからの眺望を最大限に確保している。床レベルが下がった空間にはデイベッドなどを配置し，日本ならではの「縁側」を再構築している。
（大成建設　木村 新）

照明デザイン：ライティング プランナーズ アソシエーツ
施工：大成建設
構造：S造（超高強度CFT造），RC造，一部SRC造
規模：地下6階，地上38階，塔屋3階
竣工：2014年4月
所在：東京都千代田区
撮影：アマン東京



平面　1／80

#4

CLTと和紙で構成する「透き」の宿

オーベルジュ内子

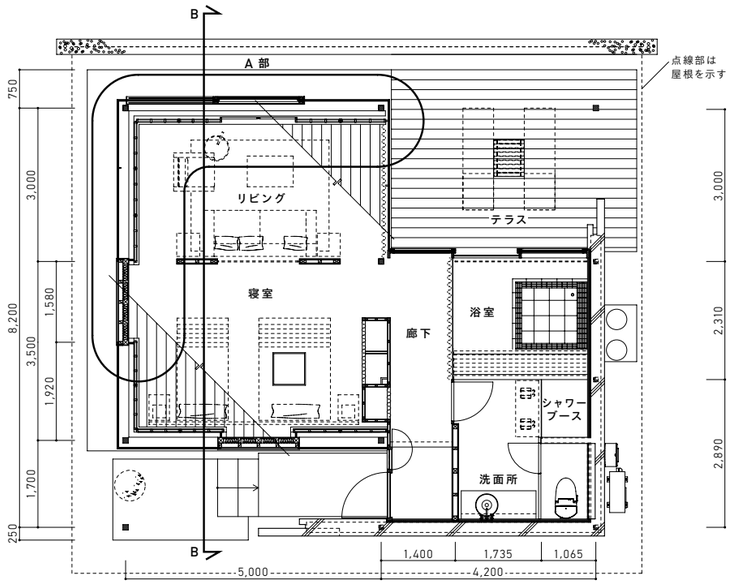
Atelier A+A／武智和臣　山内和也

Auberge Uchiko spa resort

by Atelier A+A／Kazutomi Takechi, Kazuya Yamauchi

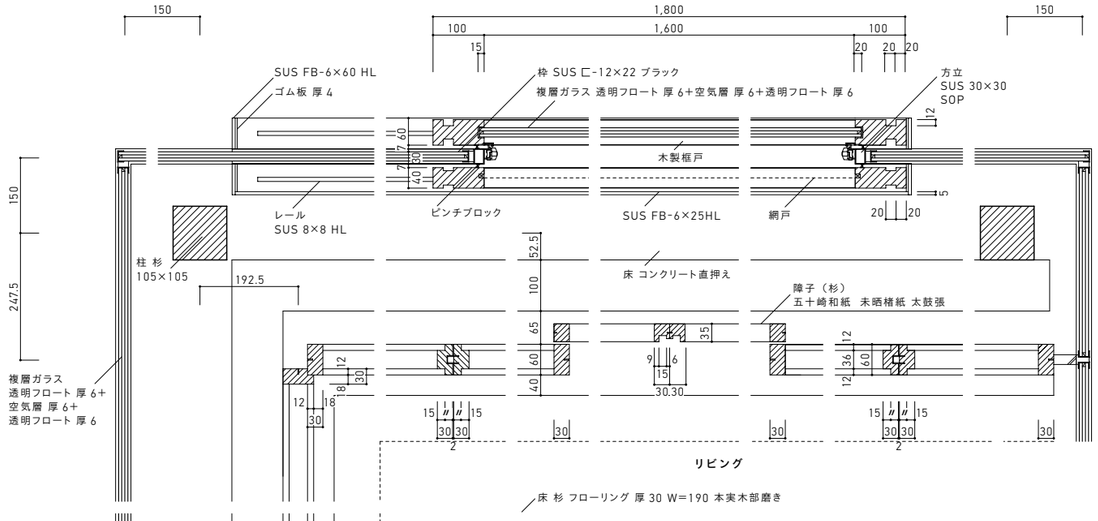
構造設計：桜設計集団／佐藤孝浩
施工：三和建設，西淵工務店
構造：木造 一部S造
規模：地上1階
竣工：2013年2月
所在：愛媛県喜多郡内子町
撮影：北村徹

配置　1／600

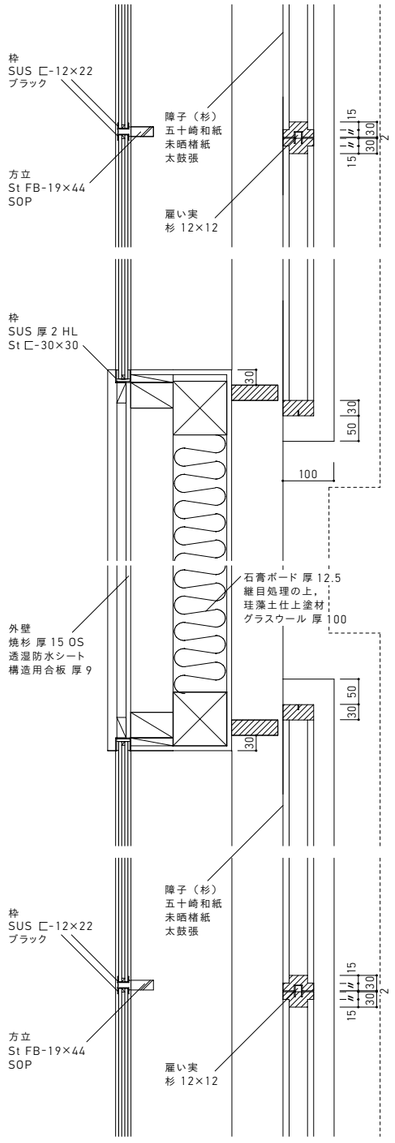


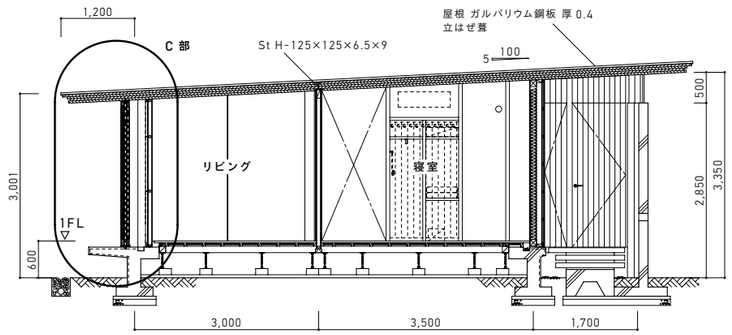
平面　1／120

宿泊棟のテーマ「透き」は，元来日本の住まいは紙が主役であったように，優しい光に包まれた空間，内子五十崎の和紙を使った「紙の建築」として表現した。障子に映し出す周囲の影，公園の中に行灯のごとく月あかりと寄り添う風景を目指した。
紙の建築を実現するために，構造要素を単純化することで無柱に近い空間表現とした。そこで建物の構成は最小限の耐震要素と現場制作のCLT構造屋根と和紙で構成している。35mm厚の杉板を4層直交にビスとウレタン系接着剤で重ねて厚さ140mmの木製床版を実現，11m四方の木製床版は，5.5m平方の床版に分節し十文字に架けたH鋼（H-125×125×6.5×9）によって一体化され支えられている。屋根を支える柱，構造壁は極限に近い量とし，小屋組のない架構形式は極薄の構造，いわゆる木造版のポストスラブ形状となっている。（武智和臣）

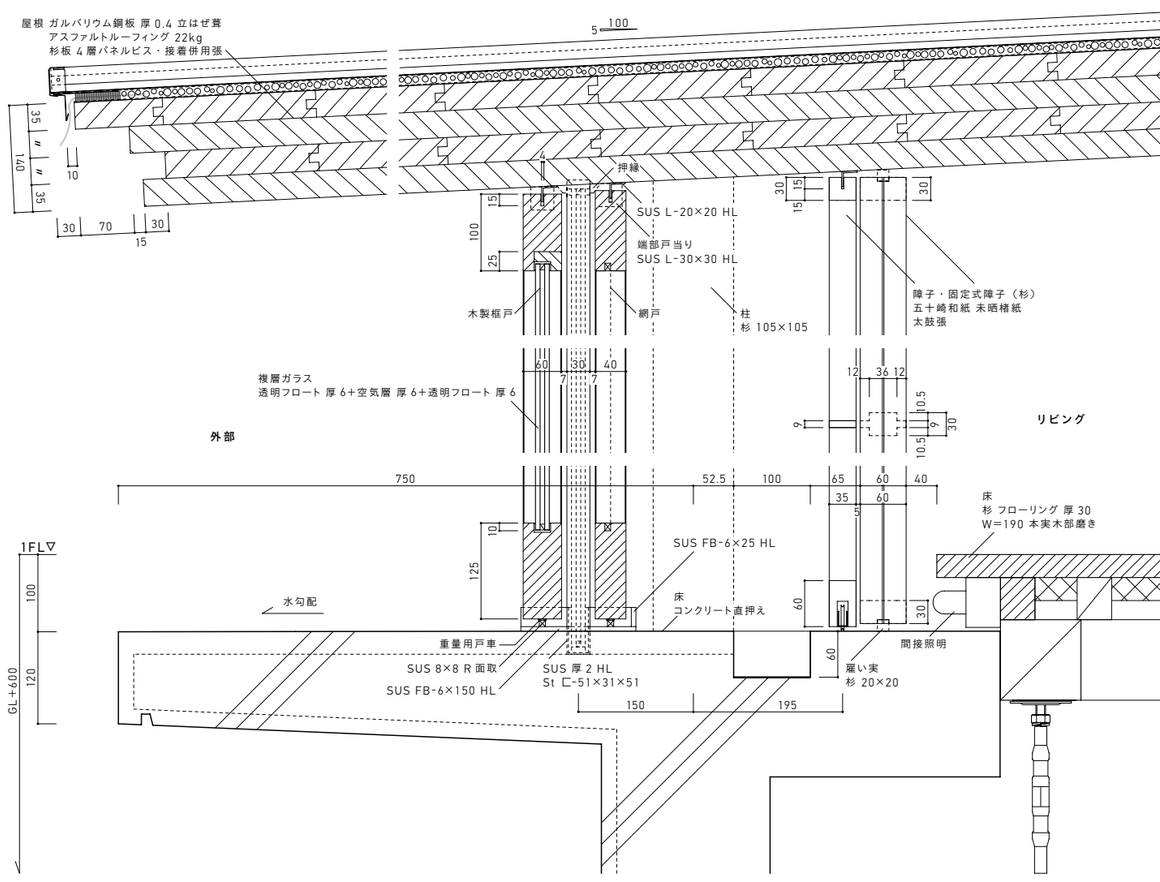


A 部建具・開口部断面詳細　1／12





B－B 断面　1／100



C 部屋根・開口部・建具断面詳細　1／8

#8

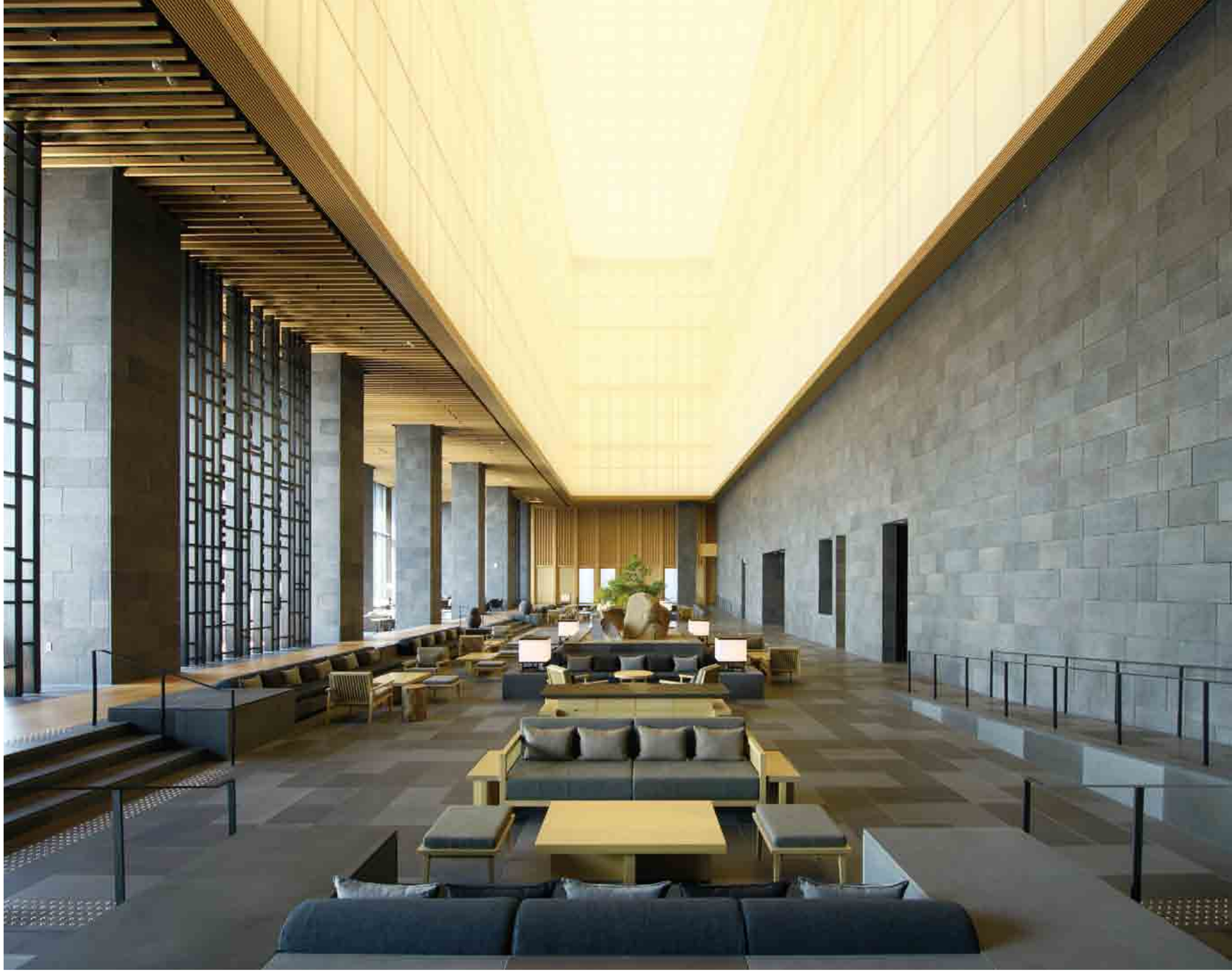
大空間を灯す「ランタン」

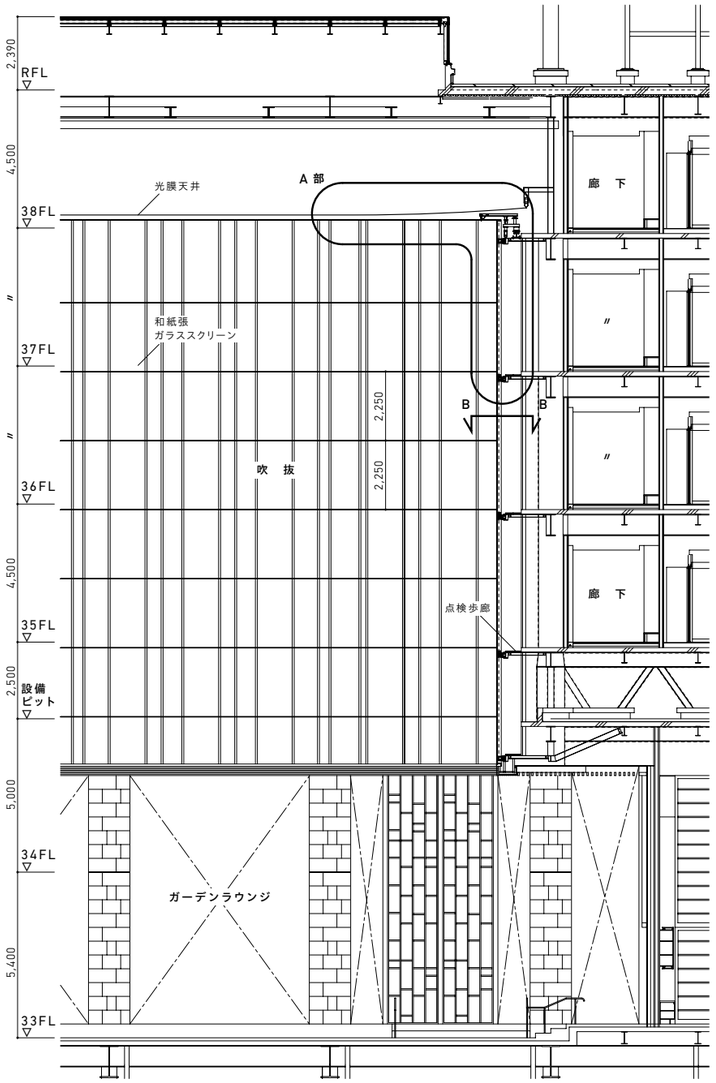
大手町タワー　アマン東京

大成建設一級建築士事務所
ケリー・ヒル・アーキテクツ（インテリアデザイン）

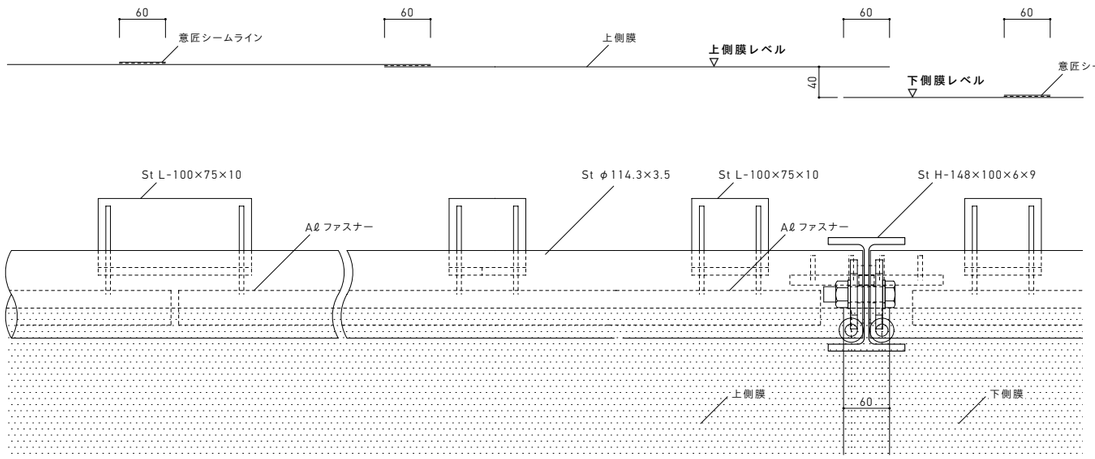
THE OTEMACHI TOWER　Aman Tokyo
by TAISEI DESIGN Planners Architects & Engineers, Kerry Hill Architects

照明デザイン：ライティング・プランナーズ・アソシエーツ
施工：大成建設
光膜天井工事：太陽工業
構造：S造（超高強度CFT造），RC造，一部SRC造
規模：地下6階，地上38階，塔屋3階
竣工：2014年4月
所在：東京都千代田区
撮影：三輪晃久写真研究所

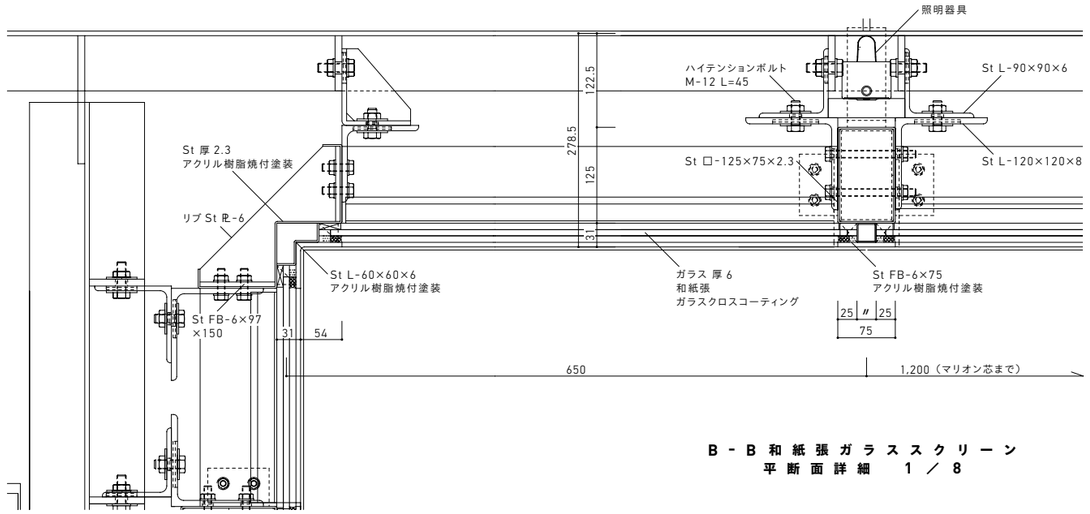




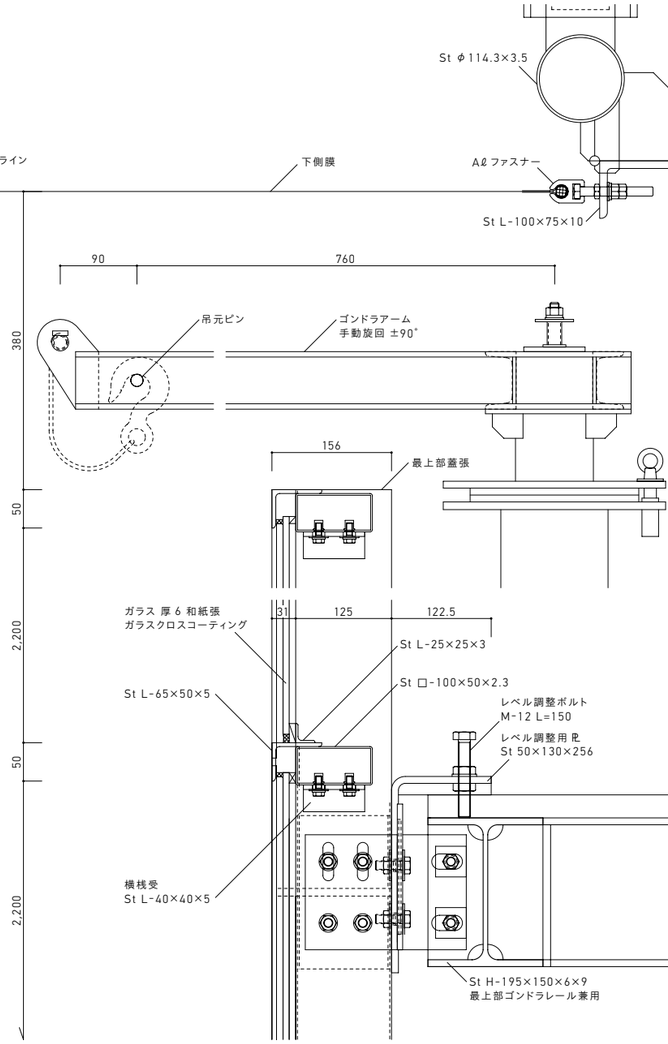
ガーデンラウンジ　矩計　1／200



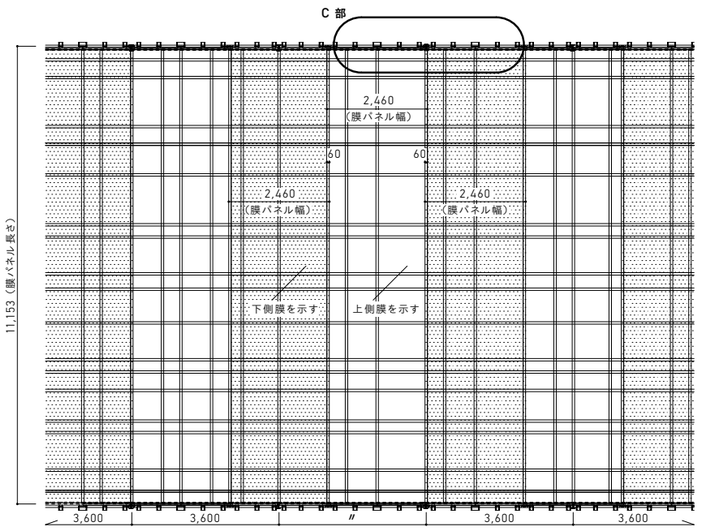
C 部 光 膜 天 井　平 断 面 詳 細　1／8



B－B 和 紙 張 ガ ラ ス ス ク リ ー ン
平 断 面 詳 細　1／8



A 部 断 面 詳 細　1／8



光 膜 天 井　見 上 げ 平 面　1／150

アマン東京の象徴ともなっているガーデンラウンジ。この空間にある繊細な表情をもつ高さ28mの吹抜けは，日中は柔らかい自然の光を放ち，夜は暖かい火の灯る「ランタン」としてゲストを迎え入れる。

光壁と連続した空間の表情を確保できるよう，膜天井に施された模様の整合のために張力の調整を行い，どのシーンでも均一に光を発するためのシミュレーションと原寸モックアップによって，この空間がつくられた。

最終的に繊細な表情をもつ空間となったが，光壁と光膜天井の間のわずかなスリットは自然排煙機能と，光壁メンテナンス用のゴンドラアームの収容機構を備えている。また，光膜天井のメンテナンス用移動式ブリッジを有するなど，ゲストには見えない多くのアイデアによりこの空間は成り立っている。　（大成建設　尾畑 剛）